

黒潮町における個別避難計画作成の取組について

～ NPOなど多様な団体と連携した取組、顔の見える関係があるなどの強みをいかした取組、
地区防災計画と連携した取組～

令和5年3月7日（火）
個別避難計画作成モデル事業 成果発表会

高知県黒潮町健康福祉課

目指す姿・・・犠牲者ゼロ

平成19年度～

「①要援護者台帳」の取組みを実施

⇒対象者・・・1人暮らしで見守りが必要な方、移動に支援が必要な方、認知症 等

平成26年度～

「②避難行動要支援者名簿」の整備

⇒対象者・・・要介護3以上、障害者手帳2級以上、精神障害者手帳所持 等

平成25年度

③戸別津波避難カルテの取組

⇒対象者・・・津波浸水区域にお住まいの世帯

町長訓示（抜粋）

- ・対策を諦め、町の営みを否定するような考え、発言は禁止
- ・住民の皆さまの命を守る
- ・全ての職員が当事者

< 民生委員が調整 >

登録者数（平成27年11月5日現在）

登録者数 538 名

情報共有 区長・民生委員・自主防・消防団・警察署(駐在所)・消防署・社協

< 地域が中心 >

対象者数（令和5年2月10日現在）

避難行動要支援者 243 名（同意：194名）

情報共有 区長・民生委員・自主防・消防団・警察署(駐在所)・消防署・社協

< 行政と地域 >

対象者数（平成26年1月現在）

作成世帯数 3,791 世帯

※コミュニティの活性化、避難場所、避難者数、ルート等の把握

令和4年度～

地域調整会議の実施

【参加者】

区長・民生委員
福祉専門職
あったかふれあいセンター
行政、社協 等

避難訓練の実施

実効性の確保
計画の検証 等

令和3年度

【①と②を整理し、名簿を一本化】

- < 庁内体制の確立 >
 - ・取組の方向性の確認（首長含む）
 - ・部署間連携の強化 等
- < 関係機関との連携 >
 - ・福祉避難所協議会
 - ・あったかふれあいセンター
 - ・区長、民生委員、専門職 等

個別避難計画の作成

更新ができていない
情報が古い
地区では把握できない 等



地域調整会議の実施

- ケアマネージャーの参加
- あったかふれあいセンターの参加 (NPO)
- 個別避難計画の作成



主体は『地域』
専門職の知識
日頃の関りの様子 等



お試し避難訓練の実施

- 個別避難計画の検証
- 医療的ケア児への避難対策



作成して終わりでない
当事者の意識の変革 等



地域との連携

- 要配慮者の選定 (名簿の精査)
- 防災地域担当職員の活用
- 地区防災との連携



地区防災計画との整合性
⇒地域としての避難ルール等確認
これまでの取組や関係性を活かす



福祉避難所協議会との連携

- 福祉避難所と避難行動要支援者のマッチング
- 避難行動要支援者が参加した福祉避難所開設・運営訓練の実施



避難先の確保
⇒受入れる側と避難者が事前
マッチング
⇒福祉避難所の知識向上

【参考】お試し避難訓練の様子

①視覚障がい者
自宅～津波避難タワーへ避難

支援者と避難



避難タワーへ避難

【本人の感想】

- ・思ったより避難に時間（余裕）があった
- ・階段の一段目に足が引っかかる
- ・避難できる身体を保つ 等

【支援者の感想】

- ・屋外に出ることができれば、避難ができる
- ・支援者を増やすことも重要 等

<参考> 訓練実施者

聴覚障がい者

肢体不自由者・・・ 等

②在宅酸素及び人工呼吸器(夜間)
自宅～自宅付近高台～福祉避難所へ避難

医療機器へ電気供給



電気自動車から電気供給

【家族の感想】

- ・医療機器の持ちだしの選定が必要
- ・地域の支援が欲しい 等

【支援者の感想】

- ・駐車スペース等の地域のルール作りが必要
- ・電気自動車を活用して電気供給ができる



車両避難

計画は作成して終わりではない
訓練は地域を巻き込んで実施する (地区防災)

取組開始時点での課題	取組の中での課題
避難支援等実施者の確保	地域調整会議開催のスピード感
情報収集（マンパワー不足）	地域や専門職の意識の差
福祉専門職の参画等	

【特に成果を得ることができた】

- ・ 避難支援等実施者の確保
 - ・ 情報収集
 - ・ 個別避難計画の作成
 - ・ 個別避難計画の実行性
- 地域調整会議の実施
(5地区実施)
- 避難訓練の実施 (6名)

- ・ 関係者が集まることで、支援者の発見につながった
- ・ 専門職が参画することで、専門知識等が共有できた
- ・ 計画を作成し、訓練を実施していたため、スムーズに福祉避難所へ避難できた
(台風14号) (5人)
- ・ 計画作成26名 等

【成果を得ることができた理由】

- ・ 「防災の主体は地域である」という考えの浸透
- ・ 訓練を実施し、計画の実行性の確認ができた
- ・ 福祉避難所とのマッチングができていた

【成果を得ることができなかった】

- ・ 地域調整会議の実施地区数 (当初予定数：20地区)
 - 原因① 新型コロナウイルスまん延
 - 原因② 参加者の日程調整

<今後の取組の方向性>

基本は「防災×地域づくり」

スピード感を持った地域調整会議の実施 (40地区予定)、避難訓練実施

- 避難支援等実施者は、自らと自らの家族の安全を最優先し、安全に避難支援等が実施できる場合に、避難情報の伝達、安否の確認、一緒に避難することなどの避難支援等のうち、できることについて、できる範囲で協力していただくものだと考えています。
- 避難支援等実施者に義務や責任を負わせていないことから、自らの安全が確保できないときにまで、避難支援等実施者は避難支援等を実施する必要はないということではないでしょうか。
- 避難支援等実施者が自分自身や家族の安全が確保できない場合、また、避難支援等実施者が被災した場合や不在の場合など、個別避難計画どおりに避難支援等が実施できない状況も起こり得てよいのではないのでしょうか。
そして、このような場合に、地区防災計画と個別避難計画の連携が図られ、相互に補完できる状況にあることは、避難行動要支援者ご本人や避難支援等実施者の安心につながるのではないかと気付きました。
- 地区防災計画に取り組まれている状況は、個別避難計画に基づき避難支援等実施者が避難支援等を実施できない場合にも、地区防災計画がセーフティネットとして機能することが期待できる可能性につながることから、避難行動要支援者ご本人の安心や、避難支援等実施者の負担感の軽減につながるのではないのでしょうか。
- 個別避難計画は、地域での助け合いなど目に見えない、カタチのない共助も含めて幾つもある災害時におけるセーフティネットの一つであり、個別避難計画づくりは、このようなセーフティネットを増やしていこうとする取組の一つなのだと考えてみてはどうでしょうか。
個別避難計画をこのような性格のものと捉えることで、過度に責任を感じず避難支援等実施者を引受けていただくことにつながる可能性があるのではないかと感じています。

次第

浜町地域調整会議 次第

令和5年1月10日(火)
15:00～
佐賀漁民センター

参加者:

1. 地域調整会議等について

2. 個別避難計画の作成

3. その他

記録1-1

地域調整会議 議事録(町地区)

令和4年11月28日

場所:社協

10:00～11:30

【参加者】

行政:佐田課長、山本係長、亀谷、都築係長、宮川課長、山崎(聖)

社協:秋田事務局長

地域:佐々木区長、民生委員(少林さん)、久保田さん(久保田電機)

あったか:松本さん、宮地さん

ケアマネ:山崎さん(シフト) ※途中で退席

1. 自己紹介

2. 防災情報の提供(南海トラフ臨時情報)

3. 避難行動要支援者について

→ケアマネから状況等説明

火、水、木にシーサイドのショートを利用中

月、金にデイサービスしおかぜを利用中

土日と夜間は奥さんと2人暮らし

判断能力なく、大規模災害時には奥さんもパニックなるかも

助けがあったら移動できる?フリー歩行で5mくらい(付き添いが必要)

2ヵ月に1回通院。

・地域

何かあれば、奥さんがすぐに呼びに来てくれる。自分の奥さんと仲よし。HELP ができる。 の

奥さんは元看護師さん。

娘は高知に2人。よく帰っては来る。

避難タワーまで近い。一つ畑を挟んで隣がタワー。

おうちの状態は平屋で、中も整理されている。

・避難訓練に参加したことある?

→ 本人は最近参加していないが奥さんは参加している。

・区長

新町は風雨災害についての心配は不要。

記録1-2

問題は地震、津波。

この方をどうやって避難するのか。

本人は言うこと聞かない人。動くと言っても動かない。できたらリヤカーか車いすで引っ張り出してタワーまで連れて行ければ。

ストレッチャーがあれば引っ張り出せるかも。

本人は足が弱いから歩行には時間がかかるかも。いざとなったら背中におんぶでも。

しかし、本人は自宅に残ると言う人。

体重は60kgくらいだが、脱力気味。

・人となりは？

デイサービスでは静かに一人過ごす感じ。

もし、本人のやる気スイッチが入れば大丈夫な方かも。

・地域

仕事等で周辺に人があまりいない場合の時間帯（日中）なら避難支援が難しいかもしれない。

自分とこさえ大丈夫なら助けには行けるけど・・・(区長)

家が崩れていなければ、玄関先まで出てきてくれればどうにかなるかも。

避難時に家の前を通るので、声掛け等はできる。(民生委員)

土砂災害の危険性はないので自宅。

地震津波の一時避難では町地区避難タワー。二次避難所は地区の方は大方高校に逃げる。

団体と一緒に過ごせる場合は、みんなでリヤカー等で大方高校まで運搬する予定。

■■■■は避難場所というよりも妻と一緒にいてもらった方がいいかもしれない。

・一般避難所でも大丈夫か？立ち上がりは布団からでも可能？

今は布団で寝ている。立ち上がる際は手を引っ張って立ち上がり。

畳で寝ているが、立ち上がり用の手すりやベッドは畳に悪いので、奥さんが拒否している。(こだわりがある。)

・緊急連絡先1と2はどうする？

家族（娘）どっちでもOK。ケアマネが確認して再度報告する。

その他の項目に■■■■の連絡先を記載する。避難時や何かあった際（緊急時を想定）には連絡をする可能性があり。

・南海トラフ臨時情報について

どこに誰が避難させるのか。また、揺れていないので逃げない可能性もある。デイサービス中やショートステイ利用中であれば、シーサイドという選択肢も。(サービスの調整等含む)

高知市に住む娘の家に避難することも見当が必要。

記録1-3

また、長期間になることも予想されるので、知ってる人がいる家族のところベストかもしれない。

ご本人さんと話をする必要があります。また福祉避難所を見学すれば避難に対する気持ちも変わるかもしれない。今後、個別の避難訓練を今後実施していく。

■■■■
膝を手術して歩行困難。長女（独身）と常同居。次女も週末に来ている。

訪問リハビリをしている様子。

地震津波の際は避難タワーに避難することとしている。ストレッチャーもあるので、タワーまで行ければ、引き上げることができる。

⇒計画記載内容は■■■■と同じようになる。娘と同居しており、支援はあまり必要ないかも？

4. 避難行動要支援者名簿以外の気になる方について

・■■■■

息子と2人暮らし。最近になって息子の家に転入してきた。7mのスロープを自宅につけた。

歩行器で毎日散歩している。足が悪いので避難には時間がかかる。

・■■■■

難病でバランスが取れなくなってきた。以前は後ろに転倒し、骨折で入院。その後は自宅療養をしていたが、2～3週間前から歩いている様子を見かけている。

奥さんと同居。

腎盂炎もあり。

介護認定を申請中だと思う。

・■■■■

妻、息子と三人暮らし。

あったかが先日訪問すると玄関で転倒していて、動けないようになっていた。

病院は拒否している。家の環境も悪い。

ケアマネは社協の武政さん⇒状況等を確認しておく。

・■■■■

あいさんさんに（デイサービス）行っていたが、今は行っていない様子。

※追加の方：平時の地域の見守り活動をしていく。

取り組んできた中でうまくいったことを踏まえて

- 庁内連携の確立 福祉部局と防災部局が連携
- 地域づくり 防災×地域づくり
- 地域調整会議を開催 . . . 支援者の発見、地区防災と連携
- お試し避難訓練の実施 . . 実効性の確保

取り組んできた中でうまくいかなかったことを踏まえて

- 地域調整会議の調整 . . . 関係者は多い方がいいが、その分調整等に時間がかかる。

ご清聴ありがとうございました。